

### (3)東酒屋町 文化・交流拠点景観形成地区(別図3-A赤枠線内)

#### ① 地区特性

丘陵地であり、三次インターチェンジ南東側に位置し、自然・生活環境に恵まれ、広域交通の結節点となる地区です。

奥田元宋・小由女美術館、みよし運動公園、広島三次ワイナリー、市立三次中央病院などの施設を有し、また、大規模店舗が進出し、多くの集客があります。

国道375号、市道鷹の巣線(ワインロード)、市道西酒屋寺町線、市道宗祐線(整備中)の幹線道路があり、この地区へのアクセスとして活用されています。



図3-1 現況

#### ② 景観特性

- 丘陵地であり、青空と山並みの眺望景観に優れ、開放的な景観となっています。
- 広島三次ワイナリーのワイン色に統一した屋根は、独特の景観を形成しています。
- 奥田元宋・小由女美術館と市立三次中央病院の白色系は清潔感を醸し出しています。
- 大規模な建築物が空間を保ちながら立地しています。
- 幹線道路沿いの街路樹は、主要な景観軸を構成しています。

### ③ 景観形成目標

文化・交流拠点地区は、市民のレクリエーションや文化、芸術を育み、交流を促進する場所として、丘陵地である開放的な空間を活かした、新しい魅力を創出する景観の形成をめざします。

したがって、景観形成にあたっては、次のことを柱として、重点的な景観形成に取り組めます。

- ①幹線道路沿道は、特長ある景観施設（奥田元宋・小由女美術館・広島三次ワイナリー・みよし運動公園・市立三次中央病院など）と調和した風格のある統一した街並みの形成
- ②周辺の自然環境と共存した開放的な街並み景観の創出



図3-2 課題図

#### ④景観形成方針(別図 3-A 参照)



別図3-A

- 1) 沿道景観ゾーンは、特長ある景観施設(奥田元宋・小由女美術館・広島三次ワイナリー・みよし運動公園・市立三次中央病院など)と調和した風格のある統一した街並みを形成します。
  - 四季を感じる「花木」を採用し、緑化を充実させます。
  - 建築物などは、明るい色調とし、ファサードなど統一感のある街並み形成を図ります。
  - 屋外広告物の形状や色彩は、周辺との調和に配慮します。
  
- 2) 自然景観調和ゾーンは、周辺の自然環境との共存を図り、開放的な街並み景観を創出します。
  - 自然環境との調和のため、柵などは、低木を中心とした生垣などを使用します。
  - 積極的に緑化に努めます。
  - 造成工事の際には、自然の地形を大幅に変えることを避け、長大な法面の発生を抑え、極力樹林地などを保全します。
  - 建築物などは、明るい色調を採用します。